

Scene.4
高齢者福祉



長年、地域の農業を支えてくれた。 今度は私たちが支える番。



健康が自慢だった。暑い日も雨の日も、どんな日だって自然と向き合い、おいしい作物を作り続けてきた。
そんな自慢の体も年齢を重ね、あちこちが痛みだし、思うように動かなくなった。
頼れる家族は忙しく、食事や着替え、近所の散歩もひとりでは一苦勞。友人と会う機会も減った。気持ちはふさがりがち……。
そういった方のサポートも私たちの役割。
「住み慣れた地域で安心して暮らしたい」——。その想いに寄り添い、手助けする。

J Aの専門スタッフがそれぞれの状態に見合ったケアプランを作成。自宅での生活をサポートしたり、
福祉施設に暖かく迎え入れ、体の機能回復のための訓練やレクリエーションによる認知症予防などに取り組んでいる。
そこは人のぬくもりが触れ合い、笑顔が生まれる交流の場になっている。
こうした場を提供することで、現役世代の農家が安心して仕事に打ち込み、地域の農業を支えることにもつながっている。

農家として、地域の生活者として……。地域の農業を支えてきたみなさんへの恩返し。
これからも地域のために。地域とともに。
それが私たちの願い。



知って
納得JA

Q 「協同組合」がユネスコ「無形文化遺産」
に登録されたのはなぜ？

A 協同組合の精神とその実践が
認められたからです。

協同組合はより良い暮らしの実現のために組合員が結集することで成り立つ組織です。現在、世界100カ国以上で10億人、日本では約6,500万人がJ Aや漁業協同組合（J F）、生活協同組合（生協）などの協同組合に結集し、社会の発展に大きな役割を果たしています。

「協同組合において共通の理念を形にするという思想と実践」が国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）に認められ、2016年11月、無形文化遺産に登録されました。これは、協同組合の「相互扶助」の精神が世界的に評価されたものであり、その思想と実践を次世代に引き継いでいく必要があります。格差や紛争、貧困など、世界的危機といわれる今だからこそ、「助け合い＝協同」の精神を広げましょう。



耕そう、大地と地域のみらい。

JAグループ群馬